ツタを用いたコンクリート壁面の緑化

問　観光地の道路やダムのむき出しのコンクリートの壁面を，なんとか風景にとけ込ませる緑化工法がないものでしょうか。　（上士幌町　M 生）

答　コンクリート壁面は，道路の保全上，欠くことのできない基礎工作物です。この重要な機能を，生きた材料である樹木や草本だけに頼ることは困難ですし，危険でもあります。したがって，ハードな工作物をソフトな材料でつつむ，ということになります。

自然石の貼付け，カラーコンクリート，土入りブロック，植生袋，その他の修景緑化工事が次々と実用化されています。しかし，これらは修景効果，予算，技術などの諸点において，つる性木本（とくにツタ）ほど容易ではありません。

材料　つる性木本のうち，気根と吸盤とをもったもの，ツタ（ナツヅタ，ブドウ科）が適しています。他のつる性木本は，金網や割れ目などの「足場」を必要としますし，周辺の林木を加害する恐れもあります。

材料の採集　ツタのはえている場所から，壁に登らずに，地面をはう茎を根つきで採集します。伏条とりき，といえます。あるいは，実生苗を養成します。

根鉢つくり　緑化しようとする壁面の基部に，ツタが根張りする場所（根鉢）をつくります。ふつうの樹木が直立するのと違って,ツタは修景壁面の真下に植栽されなくてもかまいません。

根鉢の構造　配置する間隔にもよって，これのサイズは変りますが，3mに１個を置くとすれば，たて 30 ㎝，よこ 30 ㎝，　たかさ 50 ㎝くらいの根張り空間（容積）が必要でしょう。水はけのよい土を入れます。

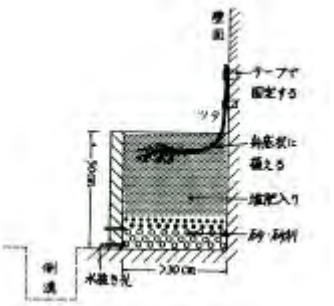
植え方　とりき苗，あるりは実生養成苗を根鉢に植えるには，根の部分ばかりでなく，地上部も一部を土に埋めます。舟底植えという植え方です。そして，茎を壁面に接着テープで固定します。好みの方向に固定すればよいのです。

管理　植えて２年間くらい，かん水，施肥，草取り，テープの更新などを行って，ツタがしっかり自立して壁面をはい上がれるように手助けします。

ツタは，気候条件にもよりますが，１年間に１～２mは伸長するでしょう。冬こそ枯れた金網のようですが，春の開葉，夏の緑葉，秋の紅葉（つたもみじ）と季節感あふれる壁面修景が期待されます。

また，ツタがおおうことにより，コンクリート表面の風化が抑制されます。何よりも，生きた材料ですから，空気浄化・酸素供給に役立ちます。蜜源ともなります。

（自然保護科　斎藤新一郎）



根鉢の構造とツタ苗の植え方